

第 18 回みどりの食料システム戦略本部 概要

1. 日時：令和 8 年 6 月 25 日（木）15:15～15:25
2. 場所：農林水産省 第 1 特別会議室
3. 出席者：鈴木農林水産大臣、根本農林水産副大臣、山下農林水産副大臣、広瀬農林水産大臣政務官、山本農林水産大臣政務官、渡邊事務次官、渡邊農林水産審議官、宮浦官房長、押切総括審議官、河南総括審議官（新事業・食品産業）、堺田技術総括審議官兼技術会議事務局長、中澤危機管理・政策立案総括審議官、森デジタル戦略グループ長、高橋新事業・食品産業部長、深水統計部長、大島検査・監察部長、坂消費・安全局長、杉中輸出・国際局長、山口農産局長、長井畜産局長、小林経営局長、松本農村振興局長、小坂林野庁長官、藤田水産庁長官、菅家関東農政局長、小峰報道官、川本秘書課長、望月文書課長、中尾予算課長、日向政策課長、藏谷広報評価課長、上杉地方課長、木村環境バイオマス政策課長、近藤みどりの食料システム戦略グループ長
4. 概要：堺田技術総括審議官より、「みどり加速化 GX プラン（案）」について説明があり、「みどり加速化 GX プラン」が決定された。続いて、根本副大臣、山下副大臣、広瀬大臣政務官、山本大臣政務官、鈴木大臣から御発言があった（全て公開）。

【みどりの食料システム戦略に基づく取組の進捗状況と今後の展開について説明】

堺田技術総括審議官より、資料に基づき「みどり加速化 GX プラン」の概要を説明。

初めに、本プランの位置付けについて説明。みどりの食料システム戦略の策定から 5 年が経過し、全国で環境負荷低減の取組が着実に進展。一方で、気候変動や国際情勢の影響により、食の安定供給への懸念が拡大。また、社会全体での GX 推進を背景に、食農分野の環境対応への企業関心が高まっているところ。こうした状況を踏まえ、みどり戦略の取組を加速化し、食料安全保障の確保に向けた取組や民間投資を進めるため、2030 年までに集中的に実施する施策を本プランとして取りまとめている。

次に、本プランの全体像について説明。食料・農林水産分野への GX 投資を拡大するため、GX 技術の市場規模予測の可視化等によって投資の予見可能性を高め、企業ニーズに沿った案件形成を通じて農山漁村における投資の受け皿の整備を進めるとともに、効果的な投資手法の活用や、海外も含めた GX 技術の戦略的なビジネス展開等を進めていく。また、近年、海外で大きな投資が進んでいるリジェネラティブ農業について、我が国における考え方を明確化していく。

さらに、気候変動への適応策強化として、現在国会において審議中の気候変動等対応品種法案も含め、高温耐性等の品種や対策技術の開発を進め、適応策の産地単位での導入を加速していく。また、国際情勢に左右されない食料生産の確保に向け、有機 JAS の活用等を通じた有機農業の面的拡大や、国産バイオマス・再エネの新たな活用を進めていく。加えて、J-クレジットやみえるらべる等の仕組みの発展的な活用を促すとともに、環境負荷低減の取組について、来年 3 月に開幕する「GREEN×EXPO 2027」において国民理解の醸成に取り組んでいく。これらの取組を通じ、民間投資を呼び込

むことで、みどり戦略に基づく取組をさらに加速化し、環境価値が付加された食品等を「サステナブルフード」と位置づけ、食農分野への投資に社会的な意義を与えることで、さらなる投資を呼び込む好循環を生み出していく。

【副大臣からの御発言】

（根本副大臣）みどりの食料システム戦略の取組を加速化し、食料安全保障の確保に向けた取組を推進するためには、生産現場のみならず、消費者など食料システムに関わる幅広い関係者の協力が必要不可欠であり、積極的な周知活動を通じて多くの人にみどり戦略を知っていただくことが重要。来年開催の「GREEN×EXPO 2027」は、カーボン・ニュートラルやネイチャーポジティブ等、環境や持続性がテーマの一つとなっており、我が国の技術や社会貢献の成果などを多数の来場者に発信する絶好の機会。今後とも、こうした機会を活用し、食に関わる全ての人に向けて、幅広く分かりやすい情報発信を行い、みどり戦略の理解醸成に取り組んでもらいたい。

（山下副大臣）気候変動が激化し、高温や豪雨などの災害が増えており、農林水産業にも大きな影響が及んでいる。気候変動の緩和も非常に重要だが、適応についても対応していく必要。農林水産省としても気候変動適応計画を策定し、適応のための取組を進めているところであり、本国会における（気候変動等対応品種法案の）法案審議もその流れだと考えている。今回決定した本プランにおいても、気候変動への適応が重要な位置付けとされているが、我々が要望を受ける中でも高温耐性品種の開発等を急いでほしいという声を日々伺っているため、本プランを契機として、気候変動への取組の加速化に向けて、皆様方のご努力をお願いするとともに、我々も汗をかいていきたい。

【政務官からの御発言】

（広瀬大臣政務官）食料・農林水産分野において、GX 投資を拡大させるためには、その基礎となる技術の開発・普及が必要不可欠。我が国には、スタートアップを含め、優れた技術を持つ企業が数多く存在しており、こうした企業が国内外を問わず幅広い市場を獲得していくことが重要。私自身も、先日ブルネイで開催された第 38 回 FAO アジア・太平洋地域総会に出席し、国際機関等との連携を通じた我が国の持つ脱炭素技術の海外展開等、我が国企業の海外進出にも資する形での地域協力の強化を各国に働きかけてきた。今回のプランでも、企業の先進的な取組事例が多く紹介されている。こうした先進的な事例が拡大するよう、あらゆる側面から投資環境の整備を進めてもらいたい。

（山本大臣政務官）国際情勢に左右されない食料生産の確保が重要。国際情勢が不安定化する度に、肥料を始めとした輸入に依存している資材等の価格が高騰する等、食料の安定供給に大きな影響を与えている。食料の安定供給を確保するためには、国内の資源を有効活用する有機農業が、現在の点の取組ではなく面的な取組として拡大していくことが重要。各地で意欲ある農業者の方々が環境負荷低減に取り組んでおり、このような取組が全国各地に普及していくことが求められる。国際情勢に左右されない農林水産業を実現するためにも、有機農業等の取組について、先行事例

を評価し、情報を共有しながら着実に進めてもらいたい。

【大臣からの御発言】

（鈴木大臣）食料・農林水産業は、食という国民の生活の礎を支えるものであり、将来にわたって安定的な生産を確保することが農林水産省の責任であると考えている。しかし現実としては、近年の高温・渇水を始めとする気候変動が急激なスピードで生産現場に影響を及ぼしている。こうした中で、われわれ農林水産省は、2050 年に向けた長期的な視点を持って「みどりの食料システム戦略」を進めてきたところ。ただいま決定された「みどり加速化 GX プラン」では、GX 投資の拡大・適応策の強化等、新たな基軸が打ち出されているが、その展開に当たって、私からも 3 点お願いしたい。

まず、このプランを実現するためには、何よりも現場の目線を持つことが重要。各地の生産者の皆様や、みどり戦略に関わる事業者の皆様が、環境負荷低減に向けて、どのような取組を行えるのか、行う意義を感じていらっしゃるのか、どうすればさらにもう一歩進めるのか、こうした視点を持って、各施策を進めてもらいたい。特に、例えばバイオスティミュラントをはじめ、多くの民間事業者・スタートアップの皆様が日本の国内市場だけではなく海外でも通用する技術が生まれつつある。カーボン・クレジットの取引も同様。国内に限らずスタートアップの皆様が活躍しやすい、みどり戦略を通じた関わりが多く、事業者の皆様が増えていくよう心掛けつつ、今後の施策を進めてもらいたい。

そして第二に、こうした施策については、それぞれの所掌にとらわれることなく、食料システム全体で取り組んでいく必要がある。本プランにおいても、農業だけでなく林業、水産業、食品産業、そして国内においては消費者の行動変容まで含まれており、全省的にみどり戦略を加速化していかなければならないと考えているため、省内での連携を密にして進めてもらいたい。

第三に、有機農業の取組を拡大させるためには、国内市場だけでなく海外市場への展開を積極的に進める必要がある。特に有機の茶は大変引き合いがあり、国内の供給が追い付かないという現実が突きつけられている。海外の市場を見据えた、世界で認めていただける有機農業のマーケットと国内の環境整備に取り組んでももらいたい。

最後に、環境負荷を低減する取組は、農林水産物の付加価値を向上するための有効な手段。来年の「GREEN×EXPO 2027」において、我々が持っている最先端の技術を世界に向けて発信することを一つのマイルストーンと位置付けて、さらに 10 年先、20 年先、2050 年を目指して、食品産業・農林水産業が日本らしく世界をリードして稼げる産業になることを目指し、プランの取組を進めていこう。今後、予算要求や骨太に向けて皆で頑張っていこう。

（以上）